

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日：2022年 9月 日
- 事業名：千葉県におけるフードバンクの中核的プラットフォーム構築事業
- 資金分配団体：公益財団法人パブリックリソース財団
- 実行団体：企業組合労協船橋事業団

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
「寄贈」「提供」双方の食品取扱量増加に対応するための IT 化により、ルーチン業務の負担軽減	ルーチン業務の IT 化率	30%	2021 年 ～2023 年度	10%	3
フードドライブ在庫管理システムの構築	フードドライブ取り扱い総量のうち、システム管理下に置かれている物量	90%	2022 年年 ～2023 年度	30%	3
物流サテライト拠点の設置・整備	① サテライト拠点数 ② サテライト拠点の支援量	② 3 か所 ② 30 トン(テスト運営後に見直し)	2021 年 ～2023 年度	① 1 か所 ② 0.3 トン (2021 年 11 月～2022 年 3 月)	2
サテライト拠点となる地域の中で、フードバンク活動への協	①拠点化についての勉強会や講習会の実施数	① 3 年間で 6 回 ② 年 2 回程度	2021 年 ～2023 年度	① 1 年間で 2 回 ② 年 2 回	2

力体制をつくる	② 3か所のサテライトを作るための説明会の実施回数 ③ 3か所のサテライトからの発送件数(手渡し含む)	③ 2021年度 10件/月、2022年度 15件/月、2023年度 25件/月		③ 2021年度 3件/月	
双方向のプラットフォームとして、様々な団体がアクセス・情報交換・連携できるようにネットワークの幅を広げていく	食糧寄贈、提供、ボランティア参加、寄付金等でのコミットするプラットフォーム参加数 ①団体数 ②個人 ③うち自治体、社協数 ④うち食支援団体 ⑤支援総量	① 130 → 260 ② 170 → 225 ③ 70 ④ 5 → 20 ⑤ 88トン	2021年度～2023年度	① 226 ② 192 ③ 60 ④ 10 ⑤ 79トン	1

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
コロナ禍による困窮世帯の増加による個人支援量を抑えるため、昨年に引き続き、支援機関への窓口支援物資の提供を強化しました。支援量が増加する年末年始や夏休み対策として支援機関向けに大規模な配布を行いました。 学習会やボランティア体験などは、検温・消毒の徹底はもちろん、人数制限を設けたり、作業を入替制にしたりと室内でもゆとりを持って活動できるよう工夫しました。

## ③ 広報（※任意）

### 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

- NHK（2022.2/9「首都圏ニュース」）
- ちばテレビ（2021.11/27 2022.6/12）
- 千葉日報（2021.8/10 10/1.16.25 11/28 2022.2/24/14.21.5/28）
- 朝日新聞（2021/9/24）
- 千葉銀行「Lounge」No.89.93
- 千葉商科大学「MIRAI Times」
- ちばFun くらぶ「フードバンクお仕事体験レポート」 他

### 2.広報制作物等

フードバンクちば通信 26号（A4/8 ページ/3000部）

### 3.報告書等

なし

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
外部	全般	米山 廣明	全国フードバンク連絡協議会 理事長
内部	全般	菊地 謙	フードバンクちば 代表
内部	資金面	管 剛文	フードバンクちば
内部	実施状況	高橋 晶子	フードバンクちば
外部	評価	新藤 健太	一般社団法人 PBEE 研究・研修センター
外部	評価	川端 奈津子	一般社団法人 PBEE 研究・研修センター
外部	評価（在庫管理・物流）	阿部 知幸	フードバンク秋田 副理事長
外部	プラットフォームの構築 他	小口 広太	千葉商科大学人間社会学部 准教授
外部	プラットフォームの構築	「ONE千葉」メンバー	損保ジャパン

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
事務局が抱えるルーチン業務全般	スタッフ 1 人当りの年間取扱物量（スタッフ 2 名）	42 トン/人・年	2021 年 ～ 2023 年度	2021 年度年間取扱物量（スタッフ 3 名）：115.2(38.4 トン/人・年) →取扱量は IT 化による効率化によって増加したわけではなく、事務局の負担は依然増大していますが、在庫管

				理アプリの開発・運用に向けての準備は進んでいます。内部のデータベースを大々的に整理しました。紙ベースで散乱していた情報整理は50%程度は精査出来ました。
在庫管理システムの導入により、提供先団体それぞれのニーズや規模感に合った食品の適切な配分	食品の寄贈、提供マッチングソフトの完成度合	完成	2021年 ～ 2022 年度 → 2021年 ～ 2023 年度	システム会社による業務洗い出し概ね完了 汎用型在庫管理アプリテスト版の制作中 フードバンクちば独自の在庫管理アプリ検証中 → 在庫管理システムのメリットは、在庫・賞味期限の把握、入庫予定・出庫調整が一元化できることです。これにより団体への提供がより適切に配分することができるようになることが期待できます。
主要地域の核となる連携団体が、サテライト拠点の運営協力団体として継続的なフードバンク活動の実施	サテライト拠点の運営協力団体との連絡会議	月1回程度	2021年 ～ 2023 年度	北西部拠点：毎週 九十九里エリア：毎月 房総エリア：年2回 → 個別地域限定のフードバンク団体がアクセスしやすいエリア規模で活動できる主体の方々にアプローチ。拠点開設・運営への協力を働きかけています。
千葉県下の中核的な役割を果たすプラットフォームとして様々な団体に対して調整・仲介・取りまとめが可能	行政、支援団体、相談事業、民間企業、NPOなどのプラットフォーム参加構成団体数	100 → 200 団体	2021 年度～2 023年 度	プラットフォーム参加構成団体数 行政（社協を含）：51 食品支援団体：7 支援機関：58 民間企業：12 その他 NPO など：20



③ アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>数値的な面だけであれば、目標値の達成は期待できませんが、実態としては、社会的な影響によるところも大きいいため、自主的な努力についてはまだまだ力不足です。</p> <p>・内部の効率化</p> <p>在庫管理・顧客管理等をIT化していくためにも引き続き、資料やデータの整理を進め、データベースの構築が必要です。</p> <p>・資金開拓</p> <p>企業開拓・ファンドレイジング等の自発的努力も並行して行っています。</p> <p>・人材の確保</p> <p>ボランティアセンター・コミュニティセンター等の地域コミュニティや大学のボランティアセンター、イベ</p>

	<p>ント等を活用し、積極的にフードバンクの活動に携わ ってくださる人材を確保します。</p>
--	---

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動内容は計画通りに実施されているか	<p>① 業務の IT 化による業務負荷の軽減・平準化—ソフト機能の拡充</p> <p><b>成果物の完成が大幅に遅れており、具体的な検証に至っていないため、運用についての見直しは必須です。</b></p> <p>② 物流サテライト拠点の整備（県内3ヶ所）—ハード機能の強化</p> <p><b>概ね順調に進んでいます。</b></p>	<p>10年の間に自然派生的に蓄積していった業務の洗い出し、散乱した紙のデータベースならびに個別データの整理は予想以上に困難なもので、顧客データの集約などは未だ手つかずの状況です。これらを最終的には一元化することが最終目標です。スケジュールと優先項目の見直しをシステム担当者とは検討しています。</p> <p>→ 拠点間での在庫管理アプリのテスト導入を今年度中に実施することで、今後県内のフードバンク団体やフードバンク活動を行う社会福祉協議会への導入につなげていきます。</p> <p>→ 開発が遅れていることは否めませんが、将来的にも品質の高いものを作りたいと考えています。</p> <p>1年目は北西部エリアに拠点を設置 2年目は九十九里エリアに設置予定。活動主体となる団体とやりとりを重ね、地域への説明会の開催 3年目に設置予定の房総エリアでは候補団体まわりを開始</p> <p>→ 社会的な機運もあり、フードバンク活動に注目が集まり、千葉県内では予想外に活動が広がっています。既存の団体はもちろん新規に活動始めている、あるいは始める予定の団体を把握することが今後の仕組みづくりにおいて喫緊の課題となっています。</p>



		<p>③ 中核的フードバンクのプラットフォーム機能の充実</p> <p><b>既存のネットワークを生かした取り組みを始め、新たな連携も広がっています。</b></p>	<p>業種を超えた様々なプラットフォームによるプロジェクトがフードバンクちばを軸に展開</p> <p><b>【プロジェクトの立ち上げ】</b></p> <p>1) ちば産学官連携プラットフォーム大学生支援プロジェクト  2) 年末年始食品支援お渡し会プロジェクト（千葉県寄贈品他）  3) SDGs を活かした地域コミュニティづくり事業 他</p> <p><b>【会議体への参加】</b></p> <p>1) 千葉県食品ロス削減ネットワーク会議  2) 食でつながるフェスタ in ちば実行委員会  3) いのちをつなごうキャンペーン（県内生協）他</p> <p><b>【その他の連携】</b></p> <p>1) 損保ジャパン「ONE千葉」（千葉県に貢献する取り組みを行う組織）との連携  2) ジェフユナイテッド市原・千葉「シャレン」や千葉ジェッツ等スポーツ団体との連携  3) 銚子丸・イトーヨーカドー等店舗での連携  4) JR および関連企業との連携  5) 千葉市環境局資源循環部廃棄物対策課との連携 他</p>
<p>実施状況の 適切性</p>	<p>設定したアウトプット指標の達成状況は計画どおりか</p>	<p>① 「寄贈」「提供」双方の食品取扱量増加に対応するためのIT化により、ルーチン業務の負担軽減</p> <p><b>内部の情報整理には時間が必要。遅れているシステム開発も並行して進めています。</b></p>	<p>・これまでのルーチン業務全般を洗い出し、現在の紙ベースでのデータの整理や個人のノウハウを元に進めている作業の視覚化を進めていますが、まだまだ時間が必要です。</p> <p>・上記を受けて、業務で取り扱う情報や取り扱いルールに関する規定づくりも精査中</p> <p>・他フードバンク団体や物流倉庫などの見学、実際に運用中の物流システムの視察についてはリモートによるヒヤリングに留</p>

		<p>② フードドライブ在庫管理システムの構築</p> <p><b>現状の物量と在庫出庫の状況に合わせて検証の段階。先行して進めている汎用型システムをベースに開発予定です。</b></p> <p>③ 物流サテライト拠点の設置・整備</p> <p><b>概ね順調に進んでいます。</b></p> <p>④ サテライト拠点となる地域の中で、フードバンク活動への協力体制をつくる</p> <p><b>概ね順調に進んでいます。</b></p>	<p>まっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フードドライブで集まる食品の分析（量・種類・賞味期限など）、物流業務（回収・配送など）の洗い出しと同時にフードドライブで集まる食品の管理の方法（時系列・種類別・お米の保管など）をフードドライブ在庫システムでどのように扱うのかを検討、寄贈量増加に伴い、保管体制の見直しを行い、カゴ車による管理体制に移行</li> <li>・フードドライブの在庫管理システムについては、1点1点を記録するのは現状の物量では、現実的ではないこと、またそこまでの必要性もないことから、位置情報とカテゴリで管理する形で方向性が固まりました。</li> <li>・サテライト拠点1か所目はテスト拠点として、仮システムの導入や実際の業務を少しずつシェアリングしていく（北西部エリア）</li> <li>・サテライト拠点2か所目の運営協力団体を設定、倉庫（食品の保管場所）を確保し、拠点機能を整備（九十九里エリア・房総エリア）</li> <li>・サテライト拠点の運営協力団体の候補団体へのアプローチ</li> <li>・サテライト拠点の設立や小規模フードバンクによる支援に対する地域のニーズ調査</li> <li>・サテライト拠点となる地域の中の公的機関を含めた連携団体や個人に対して、フードバンク活動への理解協力に向けた勉強</li> </ul>
--	--	---	--

		<p>⑤ 双方向のプラットフォームとして、様々な団体がアクセス・情報交換・連携できるようにネットワークの幅を広げていく</p> <p><b>概ね順調に進んでいます。</b></p>	<p>会や講習会の実施</p> <p>→ サテライト拠点の主体は、地域を限定せず活動ができる団体で、行政や地域団体がアクセスしやすい場所であることが望ましい。</p> <p>→ それぞれの地域のニーズや必要とする支援先および新たなフードバンク活動団体等、最新の情報についても十分に把握することが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体間の調整役として定期的なネットワーク会議の開催</li> <li>・リーフレットやチラシ、見学会やオンラインでの発信等、フードバンクのPRを通じてさらに支援の輪を広げ、様々なサポートや協力の呼びかけを行う</li> <li>・食料のやり取りや災害時のコンボイ隊結成の準備などを想定してハード面の充実を図る</li> </ul> <p>→ 様々な連携やプロジェクトが進む中、さらに俯瞰して全体を見渡せる視点で、フードバンクちばの立ち位置を整理していかなければなりません。</p>
実施状況の適切性	予算が計画通りに適切に執行されているか	<b>概ね順調に進執行しています。</b>	<p>毎月で開催している当法人の理事会で、各事業の取り組み状況や収支状況等を理事が確認</p> <p>→ 新たな状況に応じて適切に組み直しも進めていきます。</p>
実施をとおした活動の改善、知見の共有	活動を通じて、新しい視点、新しいアイデアが生まれているか	アンケートやヒヤリングを通して様々な立場の方々から貴重なご意見をいただいています。	<p>支援機関や企業、生協関係者、学生等から様々なご意見やアドバイスを反映・蓄積しています。</p> <p>内部でのディスカッションも重ねていますが、イベントや次々と続くプロジェクトに追われ、その調整や運営が間に合っていない。</p>

<p>実施をとおした活動の改善、知見の共有</p>	<p>活動を通じて得られた知見を同じ分野で活動している団体と共有できるように、整理・蓄積できているか</p>	<p>概ね把握できていますが、整理・蓄積は随時行っていきます。</p>	<p>県内の主要団体とは、すでに生活協同組合を含めたネットワーク組織があります。また日常的な食品のマッチングについてはすぐに連絡が取れる体制となっています。</p> <p>県内にフードバンク活動に取り組む団体が増えてきたこともあり、最低限のルールや情報を共有する仕組みづくりが必要と言えます。しかしながら、種々様々な規模の団体の把握と意思確認にはある程度の時間が必要となります。</p>
<p>実施をとおした活動の改善、知見の共有</p>	<p>活動を通じて見えてきた課題をフィードバックし改善に活かしているか</p>	<p>課題は山積しています。現場の対応・改善に善処している状況です。</p>	<p>コロナ禍下でフードバンク活動が注目される中、想定外の「寄贈」「提供」双方の食品取扱量増加、ネットワークの拡大に現場は対応に追われています。</p> <p>IT化を含め、根本的な対応については内外に協力を仰ぎ、取り組んでいきます。</p>
<p>組織基盤強化・環境整備</p>	<p>事業を継続的に実行できる体制と組織基盤が強化されたか</p>	<p>① 場所の確保 <b>現在の事務所倉庫は、広い駐車場も含め、十分に活用しています。</b></p> <p>② 人材の確保 <b>スタッフの増強、ボランティアの確保は進んでいるが、十分とは言えない。</b></p> <p>③ 財源の確保 <b>営業ツールの開発、SNSの活用</b></p>	<p>千葉県内の中心拠点としては十分な機能を果たしていると思われる。今後はフードバンクちば自体の寄贈量を増やしていくというよりは、数年前から進めている地域分散・地域活用の推進に舵を切っていかなければいけません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門スタッフの雇用</li> <li>・ 学生・企業・グループボランティアによるサポート体制</li> <li>・ 各種ボランティア育成・紹介団体との連携</li> </ul> <p>→ 新たな連携や学習会等からボランティア活動への参加につながるケースが増えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業アンケートをもとに営業ツールの開発</li> <li>・ ネット寄付・会費の自動更新化等、システムの構築</li> </ul>

		<p><b>はこれから</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リユース食器・コイン精米機の寄付等</li> <li>・公園を活用したコミュニティづくり事業を生かした農福連携の取り組み（障がい者団体の事業の一環として）</li> </ul> <p>→弱点である SNS を活用し会員確保に注力していきます。また寄付や会費に依存するだけでなく、自主的な事業の展開も進めていきます。</p>
--	--	---------------------	---

## ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

SDG's の波及（食品ロス削減喚起）や CSR 等の社会貢献機運の醸成を背景に、フードバンクちばの活動が千葉県下でも広く認知させるようになりました。双方向のプラットフォームとして機能が、様々な分野で広がっています。

### 千葉ロータリークラブとの取り組み

千葉ロータリークラブでは 2019 年 11 月より、加盟企業がそれぞれにフードドライブを行い、集まった食品をフードバンクちばにご寄贈いただいています。2021 年は環境保全プロジェクト（千葉ロータリークラブ海岸美化プロジェクト）にてフードドライブの実施、大学支援プロジェクトへのご支援等、また子育て世帯へのお食事券のご提供もいただきました。お食事券は千葉市子どもナビゲーター事業等を通じて市内の子育て世帯への支援に活用します。フードドライブの活動を通じて、各企業が独自にご寄付やサポート会への入会、さらにボランティア派遣や様々なアドバイス等をいただいております、まさに物心両面から支えていただいております。

### ちば産学官連携プラットフォーム

ちば産学官連携プラットフォームの主催である千葉市役所こども企画課の働きかけから大学側の事務局である淑徳大学を窓口に大学生への食品支援プロジェクトが立ち上がりました。初年度 2021 年は 3 回の食品提供を行いました。今年度は、学生の皆さんにもボランティアに参加していただき、食品の引き取り・仕分け・各大学への配布までの一連の作業に関わっていただいております。一方的に食品を提供するのではなく、フードバンクという活動の中からこういった支援が生まれていることを学生の皆さんに実際に体験していただくことで、食品ロスの現状や生活困窮の問題について考える機会にさせていただければと思っています。

※ちば産学官連携プラットフォームからの参加校：植草学園大学、植草学園短期大学、神田外語大学、敬愛大学、淑徳大学、千葉経済大学、千葉経済大学短期大学部、千葉明德短期大学、帝京平成大学、放送大学、千葉敬愛短期大学

・千葉県内生協連携キャンペーン

毎年9月から11月にかけて、千葉県内の3つのフードバンク（フードバンクちば、フードバンクふなばし、とうかつ草の根フードバンク）と6つの生協（生活協同組合パルシステム千葉、生活協同組合コープみらい、生活クラブ生活協同組合、なのはな生活協同組合、千葉県庁生活協同組合、千葉県生活協同組合連合会）が連携してフードドライブキャンペーンを行っています。フードバンクの活動を子ども達にも知ってもらうため、小学校高学年～中学生を対象とした「夏休み子ども記者体験」、「つながりエールを贈ろう」と題し、フードドライブで集まった食品を使って生協とフードバンク団体がそれぞれ文字を作り、SNSで発信拡散するという2つの企画を実施しました。その他、店舗回収や破袋米の提供、キャンペーン期間外の組合員回収の実施、ボランティア体験や学習会の実施、大学支援プロジェクトへのご協力等、年間を通じて様々な側面からご協力いただいています。

- ・千葉フード連合

ヤマサ醤油労働組合、石井食品労働組合・TaKaRa労働組合・合同酒精労働組合等の構成組織の組合員によるフードドライブの取り組みはもちろん、さまざまな体験会の実施や定期的なグループボランティアの派遣も行っています。

#### **様々な会議体や学習会・講演会への参加も活発化**

- ・千葉県食品ロス削減ネットワーク会議
- ・食でつながるフェスタ in ちば
- ・多職種連携会議
- ・SDG'sを活かした地域コミュニティづくり事業 他

### **③ 事前評価時には想定していなかった成果**

支援機関へのアンケート調査ではフードバンク活動への関心は思いの外高く、支援食品の配送や引取り、フードドライブ窓口運営（受付・回収・計量等）への協力についてはすでに積極的に取り組んでいただいています。さらに一昨年来から進めている食品の地域内活用への協力もここにきて急速に広がっています。フードバンクちばの役割や立場を明確にするとともに、マッチング機能の体系化も並行して行っていかなければなりません。

また、企業アンケートでも明白となりましたが、今後参加しやすく、社会貢献活動としての実感が得やすいフードドライブに取り組む企業はますます増加していくこととなります。寄贈量や寄贈内容の読めないフードドライブは、イベントの規模にも大きく左右されます。また店舗フードドライブ等継続して行う取り組みでは、右肩上がりが増加する傾向があり、どのような流れを作るかは動向を見ながら判断しなければなりません。今回はコロナで自宅待機になった方々への配食サービスで使用しなかった食品が匿名性の高いイベント系のフードドライブで

大量に放出されています。

来月に開催する10周年の記念イベントでは、千葉市長からご挨拶、県知事からのメッセージ、厚労省の地域共生社会推進室長にはご講演をいただく予定になっており、様々な分野の方々からたくさんのメッセージもいただいています。10年という年月の重みを感じるとともにフードバンク活動が千葉県内に根付いてきたことが実感でき、うれしく思っています。



#### ④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>コロナ禍でフードバンク活動が注目される中、想定外の「寄贈」「提供」双方の食品取扱量増加、ネットワークの拡大に対応し、到達点の再確認と目標値の再設定は必要となっています。</p> <p>また、遅れているIT化が進むことでさらに大きな改善が期待できます。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

フードバンクちばを取り囲む環境は大きく変化しており、思いもかけない連携が次々に広がっています。まずはその状況に追いつけない現状を改善しなければなりません。そして、様々な取り組みや連携も今はまだバラバラですが、IT化や拠点設置の推進、プラットフォームの整理が進んでいけば、点を線としてつなげていくことが可能となります。私達が目指す支え合う共生社会の予想図がだいぶ見え始めてきました。そのためにも、これまで10年間のネットワークの洗い出し、連携要素の確認・整理を専門家を交えて進めています。そこからさらに全体を俯瞰することで、相対的な関係性を検証していきたいと考えています。

